

平成29年度第1回浦河町地方創生推進会議議事録

開催日時	平成29年10月31日(火) 10時00分～12時15分
開催場所	浦河町役場 2F大会議室
出席委員	13名(郷家丈史委員、吉田隆委員、遠山寛委員、濱谷雅樹委員、生田仁志委員、風張達也委員、石川重雄委員、富永孝幸委員、早坂誠委員、菅真一委員、榎本淳一委員、佐藤忠委員、河西邦人委員)
欠席委員	6名(大針光晴委員、上埜友介委員、川越太郎委員、富田貴憲委員、木村晃悦委員、米倉祥子委員)
浦河町出席者	9名(松田企画課長、伊藤企画課参事、真下商工観光課長、長崎子育て医療課長、熊倉産業課長、小田産業課参事、室谷産業課係長、菅野企画課係長、湯谷企画課主事)
オブザーバー	1名(日高振興局地域創生局 粟田地域政策課長)

議題

1. 座長・副座長選出

(指名により選出)

2. 平成28年度地方創生総合戦略の進捗状況の確認及び効果検証

総合戦略に掲げる政策目標の進捗状況、総合戦略推進状況確認調書について

(資料1 浦河町地方創生総合戦略に掲げる政策目標の進捗状況について説明)

【座長】 それでは資料1についてご意見等ございますか。

いちごの生産額について目標4億3千万に対して2億ちよつとの実績となっているがいかがか。

【A委員】 今のペースで行けばH31に4億3千万円という生産額はなかなか厳しい数字になってくると思う。選果場の問題や1農家あたり1千万円の生産額と考えるとあと20組ほどの就農者が必要となってくるのではないか、今後の研修生の受入など正直わからないところもある。

【座長】 交流人口数の目標に対して実績が伸びていないようにみえるがいかがか。

【B委員】 この交流人口はどういう基準か。

【事務局】 この目標を設定する基準としては日高王国での浦河宿泊分やアエルの合宿宿泊数を拾える数字として設定している。

それ以外の交流人口も数字に出ていない部分であると考えている。

【B委員】 目標に向けて数字を伸ばすのであれば、大きなイベントをするだとかしないとなかなか数字が伸びないのでは。

【事務局】 現状、受入場所、受入時期など限られていることもあり、合宿等受入体制の整備が必要と考えている。

【C委員】 受入体制の整備についてもきちんとしていかなければ、いずれ一杯になってしまうなどあると思う。2年前とくらべて減っている分析などもしっかりしていった方が良いのでは。

【座長】 実際、人数が減っているということは気になる場所である。

【座長】 出生数については目標を上回っているところであるが、役場担当者はどのようにお考えか。

【役場担当】 少子化等進んでいるなかで下げ止まっているという印象、各種子育て支援など取り組み子育てしやすい環境づくりなどおこなっていききたい。

- 【E 委員】 出生数の中で第1子、第2子、第3子などの数はわかるか。
- 【役場担当】 最近の傾向、現場の感覚として2子目、3子目というのは増えてきているのではないかと。子どもをもたないというケースもあるが第1子目がいる方は2子目、3子目と考えられるように町の子育て支援などの効果もでてきているのではと期待しているところ。
- 【F 委員】 自分のところも第3子がいて子育て世帯と話す機会が多いこともあるが、自分たちのまわりでは第3子というのは増えている印象がある。
- 【座長】 お子様をもたない世帯にどうこうとは言えないが現在いる世帯の支援等しっかりおこなっていたきたい。
続いて高齢者の生活などについてどうお考えか。
- 【G 委員】 高齢者人口は増えてきているが老人クラブが多い時に比べて2/3程度となってきたり活動の場など考えていく必要がある。また体調を悪くして病院や子どものところへ行くなどして浦河から出ていく高齢者もいるので、そういったところも社会減の要因なのでは。
- 【座長】 テレビなどでも夏いちごの生産について取り上げられているのを見ましたが、その辺についていかがか。
- 【A 委員】 本州の方でも夏いちごを生産しているところが増えてきており価格が下がってきている、6次化産業とまでいなくても若手生産者で規格外の製品化など必要と考えている。
実際に夏いちごアイスの製品化をおこなっている。
そういった事業で生産者が潤ってくれば就農希望者も増えてくれるのかと思う。
- 【座長】 テレビでも見たがあのアイスはどこで買えるのか。
- 【事務局】 現在のところはイベントなどでの販売となっている。今後の課題として常設販売をどうしていくかということになる。
6次化を進めていくという点でも設備を整備していくとか人づくり研修など、こういった事が効果的なのかなど、戦略の点でも議論が必要になってくる。
- 【座長】 浦河、様似と日本で一番生産量が多くブランド化に向けて延びてきているので、販路拡大などあらゆる面で取り組んでいただきたい。
続いて地元の高校を卒業した子どもたちの浦河への定着についてどうか。
- 【H 委員】 ご承知のとおり浦河高校は総合学科ということで、どの分野にも取り組んでいるが現状の卒業後の進路としては3割が4年生大学、3割が短大・専門学校、3割が就職といった状況。
就職先の6割が日高管内となっている。
求人でも、都会と違って良い所は顔の見える求人と言いますか、近所の知っている人が社長さんだったりといったケースもあり、仕事内容等把握しやすい面もある。
学校の取組としても町に出ていき、調査をしてテーマをまとめるといった授業もしており、今まで知らなかった町の資源や良さなど、先程の夏いちごのような町の良さを知るといった機会は増えてきているし、学校としても町民に受け入れていただきながら、生徒がまちに入って行き地元で愛着が持てる取組を積極的におこなっていきたい。
- 【座長】 観光の担当者が来たので、再度確認したいが交流人口についてはどう考えているか。
- 【役場担当】 交流人口数についてですがアエルの合宿宿泊実績と日高王国の浦河宿泊分と乗馬療育の外部利用者を交流人口の数とつかんで、KPIとしているところですが、合宿の誘致が今のところ進んでいないことや日高王国の受入についても浦河、様似、えりも、三石地区での受入の割り振りの関係もありますが2年前と比べて減っており、また乗馬療育の外部利用も無かったため目標に対しては減となっている状況です。
- 【座長】 漁業の新規就漁者について、いかがか。

【I 委員】 H28については新規就漁者6名の内2名が後継者で残り4名が船の乗組員となっている。新規漁業者が6名増えているが、組合退会も6名でプラスマイナスゼロといった状況。後継者は確実に漁業を続けていくかと思うが新規の船の乗組員が継続していくかといった課題はある。

(資料2 総合戦略確認調書 政策目標1について説明)

【座長】 H29の新規創業件数2件申込受付とあるがどのような業種か。

【役場担当】 食堂と農業サービスとなっています。

【E 委員】 H28の商品開発の内訳教えていただけないか。

【役場担当】 イチゴスイーツ開発、日高昆布だしパック、海産セット、和牛を活用したハンバーグとなっている。

【J 委員】 新規雇用者数の中にU・Iターンの補助金を利用した方が19名とあるが道内、道外からや職種など内訳を教えていただけるか。

【役場担当】 U・Iターンの区分しか持っていないが内訳としてUターン5名、Iターン14名、職種は農業9名、サービス業10名となっている。

【J 委員】 農業の中には軽種馬も含まれているか。

【役場担当】 軽種馬関係に就職した方も含まれている。

【事務局】 観光の分野について総合戦略にもあげているが、地域DMOの設立に向けて観光協会の法人化なども図り様々な取組も進めている。

町外の方からは今までおこなっていない取組など高い評価を受けているが、地元から見て現状の観光の取組についてどうとらえているか、率直な意見を伺いたい。

【K 委員】 町外からお客さんが来た時に浦河ならどこに連れて行く、特産品の買う場所など思いつかないのでは。モデルコースや道の駅などの買い物の場所などがあるとわかりやすい。

【座長】 えりもなら襟裳岬に行くなどそういったわかりやすさということでしょうか浦河ではなかなか浮かばない。

【事務局】 町民の皆様自身が浦河の町が観光でまだまだがんばれるといった実感が少ないから、新しい取組、新しい観光について、外部の評価と比べて内部の評価が低いといったところか。

【F 委員】 私も最近の観光協会の取組をみて方向性としては良いと思う。

観光のやり方も変わってきており、昔なら広告を大きく出してバス観光など誰もがわかる観光といった感じであったが、今は乗馬療育やわしツアーなど個人向けでニッチ向けといったところもあるので、ある意味で町民にわかりにくい取組になってしまうかもしれない。

観光協会など集まりあるごとに取組についての説明などしており、町民から批判されるようなことが無い限り、現在のような取組は良いと思う。

【H 委員】 浦河高校の生徒も関わらせていただいているが、観光協会は精力的に外部が何を求めているかということを考えて取り組んでおり、掘り起しなど良いケースだと思う。

【座長】 観光の取組については町内内部の方の評価も高いようです。

(資料2 総合戦略推進状況確認 政策目標2について説明)

【座長】 ふるさと納税の返礼品について厳しくなったが浦河町はどうか。

- 【事務局】 当初から基準内の返礼品の金額であったのでそちらの影響はない。
例年、年末に向けて増えていく傾向なのでこれから伸びてくると思う。
- 【H 委員】 民泊、乗馬療育についてであるが、農家漁家民泊は高校生の受入をしており、浦河高校との学校同士の交流の話もあったが趣旨が違うとして修学旅行生との交流はおこなっていないが、近くに民泊に入っていた生徒に高校に遊びに来てもらったら大変喜んでいて、今後も継続していただきたい。
また、乗馬療育については世界的に誇れる事業だと思う。
受入のキャパなどの問題もあると思うが、かなり投資して良い事業だと思うので、もし受入などの問題が出ているのであれば早急に対応してほしい。
- 【事務局】 町としても乗馬療育を進めていき発展していきたいという思いがある。
今後戦略を大きく進めていく可能性として乗馬療育の町民有志の団体がNPO法人化といった動きがある。
そういった動きもみながら、今後も力を入れて進めていきたい。
- 【D 委員】 浦河町に来ている外国人観光客などにアンケートは取っているか。
- 【役場担当】 アエルの方に宿泊客などに聞くことも考えているがそれぞれの事情で泊まっている方などもあるので具体的にアンケートを取るのが施設側からも厳しいといった話もあるので間に入った旅行会社などから動向調査なども含めて今年度から考えているといった状況。
- 【D 委員】 町内に住んでいる外国人に聞いてみて自分達が自分達の友達がといった形でアンケートを聞いてみるのも一つ良いのでは。
- 【役場担当】 国別のニーズや日高の地名度なども含めて調査も少しずつ手数を多くしながら観光PRも含めておこなってきたい。
- 【E 委員】 来年度様似のジオパークの大会で浦河町に泊まる方もかなり来ると聞いているが、その際に浦河町のPRをしては。
- 【事務局】 様似町からも宿泊施設の確保などお願いされているので浦河町のPRも積極的に行いたい。

(資料2 総合戦略推進状況確認 政策目標3について説明)

- 【D 委員】 教育については学校教育はもちろん大事だが、家庭教育や社会教育も大事だと思う。
家庭学習の習慣づけなど学校の先生は転勤などで変わることがあるが親はずっと見れるといった点もあるので力を入れていただきたい。
- 【事務局】 戦略の方でも家庭での学習も大事といった位置づけなので力をいれていく。
- 【F 委員】 延長保育が減っている理由は受入体制なのか需要がないのか。
- 【役場担当】 両方あると考えている。
女性の働く時間も多様化しており、そういった対応ができないことや保育士不足で対応できない部分もある。
保育士の確保には苦慮している。
先程のU・Iターンの補助やインターンシップの受入など町立、私立と連携して進めていく。
- 【D 委員】 浦河赤十字病院もそうだが人材確保はどこも苦労している。
多少の給与の上乗せや奨学金補助などでは都会に行ってしまうので相当お金をかけないと来ていただけないのでは。
- 【F 委員】 自分の子どもが通っている保育所もそうだが、子どもの数が減っているのが延長保育だけ増やすという考えではおかしくなるので、子ども全体を増やす取組にしては。

- 【役場担当】 多くの子育て施策をおこなっているのに延長保育だけではなく、全体として子供を産みやすい、子育てしやすいといったトータル戦略としてすすめていきたい。
- 【E 委員】 小中学校のタブレットの活用方法についてはどういった状況か。
- 【事務局】 朝学習やドリル替わりの利用や物をまとめて発表するような取組の際も町に出て写真を撮る、調べ物をするといった際にも活用しており町広報でも発表している。
- 【E 委員】 現在は辞書を使わずインターネットで調べるとというのが主流で子供の好奇心など満足させる使い方をすすめていっては。
- 【事務局】 先程、説明不足な点もあったが朝学習などを通じてそういったインターネットで調べるといった習慣づけというか関心を高めていっている所である。
- 【H 委員】 文科省の指定を受けて浦河高校でもタブレット40台導入しているところである。授業の中でも活用したり、調べ物の他にもアプリケーションなど利用しながら授業で使用しているので、浦河高校に見に来てほしい。小中高連携といったことやこれから小学校でも英語授業がはじまるので連携も含めておこなっていったらと思う。あと高校は40台導入でも管理がかなり大変なので、小中学校全部だと管理はかなり大変じゃないのかなと思う。
- 【座長】 小中高連携などはかなり良い話ではないか。

(資料2 総合戦略推進状況確認 政策目標4について説明)

- 【H 委員】 介護士採用の関係で浦河高校の生徒も10名程度、介護初任者研修を受けて福祉系の専門学校に進んでいる。専門学校に進んだ生徒が浦河に就職して講師として浦河高校に戻ってくるといった良い循環が生まれてきている。今後こういった取組を進めていただきたい。
- 【D 委員】 空き家の関係で浦河赤十字病院の職員なども数は少ないが道外から獲得するケースがあるが住宅の問題もあるので利活用などすすめていただきたい。あと高校生の提言についてどういった内容で実現は。
- 【事務局】 高校生の提言についてはH28については総合計画の策定年であったのでその策定に向けた提言をいただいたところです。そういったこともあり、事業の実現などはございません。
- 【D 委員】 提言だけさせて実現がないのでは高校生もしらけてしまうということはないか。
- 【H 委員】 高校側の反省になるが行事的に提言して終わるといった感じもあった。参加させていただく方としては実現しないのはなぜかと考えることも大事だと思う。実現するならどうするといった、そういった考えをできるように生徒たちにもすすめていきたい。

3. 平成28年度浦河町地方創生交付金事業の成果の確認及び効果検証 加速化事業について

(資料3 加速化事業評価シートについて説明)

(質問なし)

4. その他

【事務局】 今後、H29の事業検証も出てくるので年度末や年度始めなどに会議となる予定ですので、委員の皆様にはまた集まっていただくこととなりますがよろしくお願いたします。

【座長】 それでは以上で会議を終了いたします。
本日はありがとうございました。

5. 閉会